

現代日本論基礎講読「研究法入門」(東北大学文学部 2013年度 4セメスタ)

第10講 プロジェクトとしての研究 (12/10)

田中重人 (東北大学文学部准教授)

[テーマ] 研究を完成させるのに必要なこと

1 文献・資料の探しかた

- 書店で探す (第5講)
- 図書館 (書庫利用オリエンテーションを受けておくとよい)
- CiNii Books: <http://ci.nii.ac.jp/books/>
- CiNii Article: <http://ci.nii.ac.jp>
- Google Scholar: <http://scholar.google.co.jp>
- そのほか、各専門領域のデータベースやリンク集など:
 - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/zinbun.html>
 - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/~gothit/kanren.html>
 - <http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/student/litsurv.html>
- 芋づる式
- 人に聞く

2 論文講読と口頭発表

論文と口頭発表に触れておくことは、学術的な表現方法を習得するという観点からも重要である。必ずしも自分の研究対象でなくとも、様々な分野の論文を積極的に読み、論文の構造や文体や語彙に慣れておくこと。口頭発表については、大学内外での学会・研究会・ワークショップなどに参加してみるとよい：

- 東北大学のニュース: <http://www.tohoku.ac.jp>
- 文学部のニュース: <http://www.sal.tohoku.ac.jp/index-j.html>
- 田中によるブックマーク: <http://b.hatena.ne.jp/remcat/東北大学>

3 プロジェクトとしての研究

Project: 有期性と独自性という2つの特徴を持つ業務。「有期性」とは、明確な始まりと明確な終わりがあること、「独自性」とは、これまでにない新しい何かを創出する新規性があること。(花岡編, 2012, pp. 1-2)

通常は、企業の中でチームを組んでおこなわれる一連の仕事を指すことが多い。この場合は、人員や予算の制約がプロジェクトの管理の上で重要となる。

学生がひとりでおこなう研究の場合は、このような制約はあまり重要ではない。それよりも、自分の使える時間・体力・知識を正確に把握して、余裕をもって計画を立てる(進行状況を見て適宜修正する)が必要になる。

4 課題

この授業の結果報告(1/7)に向けてやらなければならないこととその時期的な見通しについて整理せよ。ガント・チャート(Gantt chart)の形で書くことを推奨するが、ほかの方法でもよい。

5 今後の予定

- 来週は休講です。その代わりに、レポートに向けての個別面談を行います(各自の都合に合わせて日時を個別設定)
- 1/7, 14に各自のレポートに向けての発表をおこないます。発表者はそれぞれ3人と2人となりますが、1/7に全員資料を1部提出してください。発表の持ち時間は5分、そのあとコメントータのコメントを3分、そのあと質疑応答に20分程度とります。発表の割り振りは当日決めます。
- 発表者とコメントータの組み合わせは、事前に決めて通知します。

文献

花岡伸也(編)(2012)『プロジェクトマネジメント入門』(シリーズ新しい工学2)朝倉書店。